

授業科目(ナンバリング)	臨床栄養管理学Ⅲ (IB362) (実践的教育科目)			担当教員	林 俊介 (実務経験のある教員)		
展開方法	講義	単位数	2 単位	開講年次・時期	3 年・前期	必修・選択	必修
授業のねらい							アクティブ・ラーニングの類型
<p>本科目は、疾病構造の理解と各疾病治療ガイドラインに基づいた標準的な治療および栄養療法を学修する。それぞれの疾患に合わせた傷病者の治療のための適切な薬物・運動・食事療法、手術、また生活習慣の改善などの理解を深めていく。適時、授業内でディスカッションを行い、理解を深め、受講者のより効果的な学修活動を展開し、知識の定着を図る。そして、栄養管理の専門職種としてチーム医療の中で関連職種との連携を図り、適切な栄養療法を実施するための栄養評価、栄養教育など患者(対象者)が効果的な治療・療養を続けて行けるよう実践的な栄養ケア・マネジメント能力を身につける。</p>							② ③ ⑩ ⑪
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法	評価比率	
専門力	<p>様々な疾患・病態に対し、その疾患の概要(定義・原因・疾病構造・社会的背景・地域性など)を正しく理解し、その病気の持つ社会的意味を我が国の食生活の変遷と現状、食文化との関わりから説明できる。</p>				<ul style="list-style-type: none"> 授業態度・授業への参加度 課題レポート 定期試験 	<p>10%</p> <p>10%</p> <p>25%</p>	
情報収集、分析力	<p>各種疾患における診断基準や治療ガイドラインを理解し、標準的な治療方法を説明できる。それぞれの疾患に対する栄養管理の知識を用いて食生活の改善、生活習慣改善について説明できる。</p>				<ul style="list-style-type: none"> 定期試験 課題レポート 	<p>20%</p> <p>10%</p>	
コミュニケーション力	<p>栄養療法を行う上で、各疾患でコントロールが必要とされる栄養素について、その機能と代謝を説明できる。それを食品、料理のレベルで説明できる。チーム医療の中で、それを提案、討議できる。</p>				<ul style="list-style-type: none"> 定期試験 	5%	
協働・課題解決力	<p>疾患の治療のために患者の様々なデータ、情報等から患者の病態を把握し、問題点や栄養ケアを考えることができる。チーム医療の中で管理栄養士の役割を知り、それらについて提案できる。</p>				<ul style="list-style-type: none"> 定期試験 	10%	
多様性理解力	<p>対象者の疾患や病態だけでなく、ライフステージや身体状況、食生活、地域性などを深く理解し、栄養管理や食事療法、栄養教育を通して病状の改善、生活の質(QOL)の向上について考えることができる。</p>				<ul style="list-style-type: none"> 定期試験 	10%	
出 席					受験要件		
合 計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
<ul style="list-style-type: none"> 定期試験の成績を70%とし筆記試験を行う。課題レポートは、9回目に、それまでの授業内容に係る課題を問う。 定期試験及び課題レポートは、それぞれの疾患の概要と標準的な治療の基本的事項を理解しているか、また栄養管理、食事療法の実践について理論的に説明が出来るかを評価する。授業態度・授業への参加度は、リフレクションカードやディスカッション、授業中の態度、取組み、関心・意欲、質問等に対する返答で評価し、課題レポートと合わせ、ポートフォリオや授業の中でフィードバックを行う。 							
授業の概要							
<p>医療機関勤務での給食管理、栄養指導、栄養管理等の業務経験を活かし、様々な疾患に対する病態の理解から治療、栄養管理、食事療法の基本を実践的な授業展開により学修する。授業では、教科書以外に必要なに応じてプリント、パワーポイント、映像、関連資料(栄養剤、治療用特殊食品)等を用いて行う。</p> <p>この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、180分とする。</p>							
教科書・参考書							
<p>教科書：健康・栄養科学シリーズ 臨床栄養学 中村丁次他編集(南江堂)</p> <p>参考書：日本標準食品成分表、日本人の食事摂取基準(2020年版)、各種疾患に対する診療ガイドライン</p> <p>指定図書：健康・栄養科学シリーズ 臨床栄養学 中村丁次他編集(南江堂)</p>							
授業外における学修及び学生に期待すること							
<p>本科目は、これまで学修してきた科目を基に学んで行く。今後の他の専門科目を学ぶ上でベースとなるものである。各科目で学修した知識を繋げて理解することが大切で、それにより深い理解が出来るようになる。そして、発展的に学修を積み重ねていくためにもこれまで学修してきた内容をしっかり復習して、各回の単元、テーマに沿って予習をして臨むようにすること。また、ポートフォリオを活用して、指示した各回の学修内容の予習・復習に取り組むこと。授業を通じて実際の症例を数多く学修し、様々な疾患に対して正しい知識と認識を身につけ、そして、学びの質を高めるように取り組むこと。また、授業中の私語、スマートフォン等の不必要な使用は、厳禁である。</p>							

回	テーマ	授業の内容	予習・復習
1	腎・尿路・泌尿器疾患(1)	急性・慢性糸球体腎炎、ネフローゼ症候群 (腎臓の構造・機能 溶連菌 尿検査 慢性腎臓病に対する食事療法基準 2014年版)	腎臓の構造と機能について予習。腎炎の治療と栄養管理について復習。
2	腎・尿路・泌尿器疾患(2)	急性・慢性腎不全 (慢性腎臓病 GFR CKD の重症度分類 蓄尿 尿毒症 低たんぱく食)	腎不全の概要を予習。腎不全の治療と栄養管理について復習。
3	腎・尿路・泌尿器疾患(3)	糖尿病性腎症 (糖尿病合併症 糖尿病性腎症病期分類 チーム医療 糖尿病透析予防指導管理料)	糖尿病合併症について予習。糖尿病性腎症の治療と栄養管理について復習。
4	腎・尿路・泌尿器疾患(4)	血液浄化療法(血液透析、腹膜透析) (透析導入期・維持期 尿毒症 ダイアライザー 透析食 生活指導 腎移植) ・長崎県や学修者の出身地の疾患の罹患状況など地域の現状を知る。	末期腎不全の概要を予習。末期腎不全の治療と栄養管理について復習。
5	呼吸器疾患	慢性閉塞性肺疾患(COPD)、気管支喘息、気管支炎、肺炎、肺結核 (呼吸商 酸塩基平衡 喫煙 在宅酸素療法(HOT) 結核菌 結核予防)	呼吸器疾患の概要を予習。COPD、肺結核の治療と栄養管理について復習。
6	血液系の疾患(1)	鉄欠乏性貧血、巨赤芽球性貧血 (造血 造血幹細胞 ヘム鉄・非ヘム鉄 葉酸 ビタミンB12)	貧血の概要を予習。貧血の治療と栄養管理について復習。
7	血液系の疾患(2)	白血病(急性・慢性) (骨髄移植 骨髄バンク 放射線治療 無菌室 無菌食 社会復帰)	白血病の概要を予習。白血病の治療と栄養管理について復習。
8	筋骨格疾患(1)	骨粗鬆症、骨軟化症・くる病 (骨代謝 骨芽・破骨細胞 骨吸収・骨形成 骨量 骨密度 エストロゲン 副甲状腺ホルモン(PTH) ビタミンD カルシウム・リン 骨・ミネラル代謝異常)	骨代謝と骨疾患の概要を予習。骨疾患の治療と栄養管理について復習。
9	筋骨格疾患(2)	*課題レポート	
10	感染症(1)	食中毒(細菌性、ウイルス性、その他)、感染性胃腸炎(急性腸炎) (急性脳症 回復食 0-157 ベロ毒素 ノロウイルス サルモネラ菌 フグ毒 下痢・嘔吐)	感染症の概要を予習。感染症の治療と栄養管理について復習。
11	感染症(2)	院内感染症、新興感染症・再興感染症 (インフルエンザ 感染予防 集団感染 肺結核 HIV ロタウイルス MRSA)	感染症の概要を予習。感染症の治療と栄養管理について復習。
12	免疫・アレルギー疾患(1)	食物アレルギー (除去食 代替食品 食物負荷試験 食物アレルギー対応食品 学校給食 アナフィラキシーショック エピペン)	免疫機能について予習。食物アレルギーの治療と栄養管理について復習。
13	免疫・アレルギー疾患(2)	膠原病、自己免疫疾患、後天性免疫不全症候群 (全身性エリテマトーデス エイズ)	自己免疫疾患、免疫不全症の概要を予習。免疫疾患の治療について復習。
14	内分泌疾患(1)	甲状腺機能亢進症・低下症 (バセドウ病 橋本病 甲状腺ホルモン ヨウ素(I) ヨード制限食 アイソトープ治療 原発事故)	内分泌疾患の概要を予習。内分泌疾患の治療と栄養管理について復習。
15	内分泌疾患(2)	クッシング症候群、原発性アルドステロン症 (副腎 副腎皮質ホルモン)	内分泌疾患の概要を予習。内分泌疾患の治療と栄養管理について復習。
16	定期試験		